

13日

人権擁護委員の田中俊幸さん(共栄)に委嘱状を交付

人権擁護委員の委嘱状交付が町長室で行われ、田中俊幸さん(共栄)に宮坂町長が委嘱状を交付しました。

田中さんは、平成22年に法務大臣から人権擁護委員(任期3年)に委嘱され、4月1日付で再任されました。

人権擁護委員は、人権相談を受けたり人権の考えを広める活動を行っています。

現在、全国で約14,000人が法務大臣から委嘱されており、町では2名の人権擁護委員が委嘱を受けて活動しています。



委嘱状を受け取る田中さん(右)

25日

ともいきの里にハスカップの苗木10本を植樹

J Aとまこまい広域厚真町ハスカップ部会(長谷誠良会長)が、施設で暮らす方々のためにと、ハスカップの苗木を社会福祉協議会へ寄附しました。

寄附されたのは「ゆうしげ」や「あつまみらい」など10本で、ともいきの里(本郷)に植栽。苗木を見た入居者からは「家で栽培していたので懐かしい」などの声が聞かれました。



植樹を見守る入居者たち

27日

日本一のハスカップのまちをアピール！ P R 懸垂幕掲揚式

厚真町ハスカップブランド化推進協議会(下司義之会長)の企画によるP R 懸垂幕の掲揚式が役場本庁舎前で行われました。

これは、町の特産品であるハスカップをP Rするための取り組みの一つとして実施したものです。

また、懸垂幕は、町と包括連携協定を結んでいる札幌市立大学の学生らがデザインしました。近藤副町長は「厚真町が名実共にハスカップのブランドとして日本一であると内外にしっかり示し、生産者の皆さんと手を取り合ってまちの活性化につなげたい」とあいさつしていました。



懸垂幕を掲げる関係者たち

27日

木のぬくもりいっぱいの園舎が完成 宮の森こども園が開園

宮の森こども園の開園式が同園遊戯室で行われ、園児や来賓など約35人が出席し開園を祝いました。

開園式に先立ち、12年にわたり宮の森保育園長として園の運営に多大な貢献をされた佐藤秋夫さんに感謝状が贈呈されました。開園式では、園児代表の4歳・5歳児6人によってくす玉が割られた後、宮坂町長が「この大きな建物の中で思い切り遊んで、健やかで丈夫な体を作っていってほしいと思います」とあいさつ。続いて、新園長となった安部英志園長が「今日は宮の森こども園の誕生日です。風邪をひかないで元気に来てくれるかな?」と園児に聞くと、園児たちは「ハイ!」と大きな声で返事をしていました。



開園式で記念撮影

宮の森こども園は、建物に厚真町産のカラマツ材がふんだんに使われており、木のぬくもりが感じられる施設となっています。

また、子育て支援センターや児童会館が併設され、厚南地区の子育ての拠点を担う施設となっています。

4日

きれいな道路で通学を！野沢組が河川敷清掃活動

株式会社丸博野沢組の社員ら約15人が厚真大橋から厚真新橋の間の道路と厚真川河川敷のごみ拾いを行いました。

これは、同社が平成7年から入学式前とお盆前の時期に、児童生徒たちの通学路である会社前の道路や河川敷などを清掃しているもの。

春先のまだ寒い中、着込んで作業されていました。



河川敷清掃の様子をドローンで撮影
写真提供: (株)丸博野沢組

5日

建設協会が恒例の「道路美化活動」

厚真建設協会(鈴木英毅会長)による上厚真市街地と厚真市街地の道路清掃が行われました。

これは、子どもたちなどに気持ちよく通学してもらおうと、同協会の会員らが昭和62年度から行ったボランティア活動。

当日は、16社約30人が参加し、冬期間にたまった砂やほこりを竹ぼうきやスコップ、送風機などを使って取り除いていました。また、散水車や清掃車両も出動し、道路はきれいに様変わりしました。



厚真市街地での道路美化活動の様子

8日

厚真消防団長が交代 新団長に五十嵐さん

厚真消防団長就・退任式が総合福祉センターで執り行われ、消防団員ら約90人が出席しました。

平成28年3月31日付で団長を退任された木村幸一さん(錦町)は、「消防団員として54年の永きにわたり、大変お世話になりました。厚真消防団のますますのご発展を心よりご祈念申し上げます」と感謝を述べていました。

また、平成28年4月1日付で新団長となった五十嵐次男さん(富野)は、「消防団の使命達成のため、職・団員一丸となり努力いたします」と抱負を述べていました。



抱負を述べる新団長の五十嵐さん(左)と団長から感謝状を受け取る木村さん(右)

8日

高丘自治会が「開基120年記念誌」を発刊

高丘自治会の日西善博自治会長と松下一彦編集委員長が役場を訪れ、高丘開基120年記念誌「20年のあゆみ」を町へ寄贈しました。

高丘自治会では、開基60年から100年まで10年ごとに記念誌を発行。今回、編集委員長を務めた松下さんは「編集委員は約1年間、毎週集まって編集作業をしていました。20年分の資料集めや原稿作成は思った以上に大変で、苦労しました」と話していました。



編集委員長の松下さん(左)と自治会長の日西さん(右)